

第2回委員会の協議事項等について（案）

○ 協議事項立案の意図

事業の実施自体が目的化していることは、昭島市だけでなく多くの市町村で指摘されている傾向である。厚生労働省によれば、手段から着手しがちであることが大きな要因とされている。また、手段（事業）から入ると課題の整理が不十分になり、あらゆる問題が同次元で扱われる事態を招きやすい。そこで今回、昭島市としては現状把握⇒現状分析⇒課題抽出を丁寧に協議していきたい。

その一方、対応策の検討を完了してから今年度の事業実施に取りかかるのでは時間的な制約があるため、令和4年度は、昨年度までに実施している事業と新しい事業マネジメント体制下での事業展開への移行期と考えて、事業の準備も実施したい。

協議事項

1 昭島市の利用者・患者の現状把握（各現場の情報から見える定性的状況）

統計データでは把握することが難しい定性的な現状について、医療・介護の従事者である各委員より利用者・患者の現状について意見をいただき、数字では表れない現状を把握する必要がある。

2 昭島市における在宅医療・介護連携上の課題（めざす姿と現状とのギャップ）を抽出

3 令和4年度在宅医療・介護連携に関する研修について

- ・各委員からいただいた意見について
- ・令和4年度に実施する研修のテーマについて

第2回委員会では、円滑に協議を進めるため以下の手順で準備をしたい。

1. 後日、事務局からヒアリングシートを各委員へ配布
2. シートに基づいて各現場からの意見を記載し、事務局へ回答
3. 回答を事務局がまとめ、委員会資料として作成

ヒアリングシート

1 数字では表れない地域の現状を医療・介護の従事者である各委員より聞かせていただきたい。

場面	昭島市における利用者・患者の現状	
日常の療養支援	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>※ 留意点</p> <p>場面ごとに課題を入れたくなるかもしれませんが、ここはあくまでも利用者・患者の現状です。</p> <p>あるべき姿と現状の差から課題が抽出されます。複数の課題を整理し、何が要因かを分析した後、対策の検討へ進みます。</p> </div>	
入退院支援		
急変時の対応		
看取り		

2 令和4年度在宅医療・介護連携に関する研修について

医療・介護関係者の研修を実施するにあたり、日常の療養支援を今年度は取り上げたいと事務局は考えている。『在宅医療・介護連携推進事業の手引き』P.56、P.62～P.64を一読のうえ、内容及び形式等について各委員より意見をいただきたい。

参考：過去に実施したテーマ

- H30 『認知症』 認知症初期相談窓口立ち上げの行政説明、グループで事例検討
『多職種のチームで連携する在宅医療』 講演、グループワーク
- R01 昭島市・立川市・武蔵村山市合同シンポジウム 『在宅医療における入退院連携』
- R02 『新型コロナウイルス感染症』 講演と多職種によるパネルディスカッション
『新型コロナウイルス発生』 老人保健施設職員の講演
- R03 『今求められる入退院支援』 シンポジウム
『地域包括ケアシステムにおける関係者の情報共有』 グループワーク

